

第20回東京工業大学応用セラミックス研究所運営協議会議事要録

日 時 平成22年3月4日(木) 10時～12時

場 所 東京工業大学 すすかけ台大学会館 すすかけホール2F 集会室2

出席者 岡田 清、新家光雄、山内泰之、亀井信一、岡本達雄、有富正憲、
林 静雄、佐々木聡の各委員

別紙1. 東京工業大学応用セラミックス研究所運営協議会委員名簿

別紙2. 第19回東京工業大学応用セラミックス研究所運営協議会議事要録(案)

別紙3. 東京工業大学応用セラミックス研究所運営協議会規程

配布資料

- 1-1. 平成21年度応用セラミックス研究所教員人事について
- 1-2. 応用セラミックス研究所教員組織
- 2-1. 平成22年度特別経費(プロジェクト分【新規事業】)所要額調
- 2-2. 平成22年度特別経費(全国共同利用・共同実施分【新規事業】)所要額調
- 3-1. 平成21年度受託研究
- 3-2. 平成21年度民間機関との共同研究
- 3-3. 平成21年度その他の機関との共同研究
- 3-4. 外部資金受入状況(H17年度～H21年度)
- 4-1. 平成22年度共同利用研究申請書一覧
- 4-2. 全国共同利用研究所としての種々の実績データ(H16～H21年度)
- 5-1. セキュアマテリアル研究センター活動報告
- 5-2. セキュアマテリアル研究センター No. 2
6. 建築物理研究センター活動報告
7. 全国共同利用研究所連携プロジェクト 金属ガラス・無機材料接合技術開発拠点
平成21年度報告
- 8-1. 中期計画の実施計画(全学)55-2
- 8-2. II 特記事項
- 8-3. III 次期中期目標期間に向けた課題等
9. 応用セラミックス研究所講演会(2009.9以降)
10. 平成21年度応用セラミックス研究所非常勤講師
11. パブリシティ(2009.9以降)
- 12-1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会規程
- 12-2. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会委員名簿
- 13-1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点共同研究委員会内規
- 13-2. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点共同研究委員会委員名簿

別冊配布資料

- 文部科学省 全国共同利用附置研究所連携事業(金属ガラス・無機材料接合技術開発拠点)研究活動報告(平成17年度～平成21年度)
- 応用セラミックス研究所要覧 第14号
- 応用セラミックス研究所ニュースレター No. 23

回覧資料

- 第1回日中韓防水シンポジウム論文集

- 東京工業大学建築物理研究センター研究報告書 第10号 平成20年度
- Seventh International Conference on Urban Earthquake Engineering

議事に先立ち、議長から挨拶があり、続いて各委員より自己紹介があった。

議事要録の確認

議長から、前回議事要録(案)について説明があり、これを承認した。

審議事項

1. 教員人事について

議長から、資料1-1～2に基づき、教員の人事異動について報告があり、セラミックス機能部門の教授1名（10年期限付）とセラミックス解析部門の教授2名の3名の教授選考を行っている旨説明があった。新家委員から、期限付の有無について質問があり、議長から、フロンティア研究センター兼務である細野教授のポストについて、10年間の期限付きで教授ポストが学長裁量により使用が認められた旨説明があった。さらに、共同研究部門特任教授選考について意見交換が行われた。

2. 平成22年度概算要求について

議長から、資料2-1に基づき、平成22年度より6年間計画されている新規の附置研連携プロジェクト「特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト」について、事業仕分けによる削減はなかったが、文部科学省との折衝で縮減しており、プロジェクト全体が認められず厳しい船出となっている旨説明があった。引き続き、資料2-2に基づき、全国共同利用・共同実施分「先端無機材料共同研究拠点」について報告があった。

3. 平成21年度受託研究及び民間等との共同研究等の受入状況について

議長から、資料3-1～4に基づき、平成22年度の各外部資金の受入状況について報告があり、受託研究費の占める割合が大きい旨説明があった。引き続き、科学研究費の申請率及び採択率を高める取り組みについて意見交換が行われた。

4. 平成22年度共同利用研究の申請状況について

議長から、資料4-1に基づき、平成22年度の申請状況について、105件の申請があり、所内での書類審査及び共同利用委員会の審議の二段階により選考を行っており、同委員会が3月10日に開催予定である旨報告があり、平成22年4月から新制度として緊急的な研究課題が設けられ、従来前年度12月から1月の申請のみであったが、年度に入ってから対応可能となった旨説明があった。引き続き、資料4-2に基づき、平成16年度から平成21年度の共同利用研究実績について報告があった。

5. セキュアマテリアル研究センター活動状況について

林委員から、資料5-1～2及び回覧資料に基づき、センターは学長裁量により10年間期限付きで設置されたこと、平成21年9月以降のシンポジウム、受賞、運営委員会等について報告があった。議長から、センターは安心・安全のための材料と元素戦略の2つが大きなミッションであり、衝撃波を使用した研究に特色がある旨説明があった。

6. 建築物理研究センター活動状況について

林委員から、資料6及び回覧資料に基づき、応セラ研とすずかけ台キャンパス内の建築系の教員グループで、バーチャルな協力研究機関として活動している。講演会、シンポジウムの開催状況について報告があった。

7. 全国共同利用研究所連携プロジェクト「金属ガラス・無機材料接合技術開発拠点」の活動状況について

議長から、資料7及び別冊配布資料に基づき、平成21年度の活動状況について、最終年度にあたる今年度は所内において総括の報告会を開催し、東北大学において運営協議会の開催が予定されている旨報告があり、同プロジェクトの成果が認められ、平成22年度からの後継プロジェクトとなった旨説明があった。

8. 中期目標・中期計画について

議長から、資料8-1~3に基づき、全学分の応セラ研担当「55-2」について、平成21年度の業務実績について報告があり、資料8-2に基づき、自己点検・自己評価書の一部、特記事項の優れた点及び特色ある点について説明があった。引き続き、資料8-3に基づき、平成22年度以降の次期中期目標期間に向けた課題について説明があった。各委員より、教員の任期制及び統合研究院の設置について、意見交換が行われた。

9. その他

(1) 平成21年度講演会・シンポジウムの開催状況について

議長から、資料9に基づき、報告があった。

(2) 平成21年度非常勤講師の採用状況について

議長から、資料10に基づき、報告があった。

(3) 研究成果等の社会広報について

議長から、資料11に基づき、報告があった。

(4) 先端無機材料共同研究拠点運営委員会について

議長から、資料12-1~2に基づき、平成22年度より運営委員会の形式が変更となる旨報告があり、委員はすべて応用セラミックス研究所以外から組織され、公平性、公開性、透明性を高めるために学外者の割合が大きくなっている旨説明があった。

(5) 先端無機材料共同研究拠点共同研究委員会について

議長から、資料13-1~2に基づき、平成22年度より設置される運営委員会のもとに共同研究拠点共同研究委員会が設置される旨報告があり、過半数の委員は学外者から構成される旨説明があった。

議長から、本日の運営協議会についてご意見を伺いたい旨提案があり、以下のような質疑応答及び意見交換が行われた。

(1) 民間（海外）との共同研究について

岡本委員から、海外の民間企業との共同研究の実施状況について質問があり、議長から、受入に対する担当セクションがあり、受け皿もあるが、今年度については実施がなかった旨回答があった。有富委員から、事務手続き上困難な面があり、資金移動の伴わない形で共同研究を実施しているケースが多い旨、発言があった。

(2) 特許について

山内委員から、特許の管理について質問があり、議長から、特許は大学が管理しているが、大学が放棄すれば個人に帰属することとなる旨回答があった。引き続き、民間との共同発明にかかる特許の取扱いについて意見交換が行われた。

最後に、議長から、平成22年度から新制度となることに伴い、本運営協議会で最終となるが、各委員の皆様には様々な意見をいただき、御礼申し上げる旨挨拶があった。

以上